

花粉症が疑われる患者さんにおすすめです!

推奨組み合わせ例

ヤケヒョウヒダニ

イヌ皮膚

スギ

ネコ皮膚

ヒノキ

ガ

カモガヤ

ユスリカ (成虫)

ブタクサ

ゴキブリ

ヨモギ

カビ (マルチ)

ハンノキ (属)

特徴

スギ以外の花粉、ダニの他、単独感作が報告されている昆虫アレルゲン (ガ、ユスリカ、ゴキブリ) など、特異的IgE保有率の高い項目で構成されています*。

*) 日耳鼻 105, 1181-1188, 2002

マルチアレルゲンの構成

カビ	ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、ヘルミントスポリウム
----	---

保険点数

特異的IgE検査

1項目：110点

13項目：1,430点 (上限13項目)

ImmunoCAP測定可能項目

OAS

飛散時期	科	花粉アレルゲン	花粉との関連が報告されている食物アレルゲン
1~4月	カバノキ科	ハンノキ	リンゴ・モモ・イチゴ・メロン・スイカ・ダイズ・キウイ・オレンジ・ヤマモモ・マンゴー・アボカド・ハシバミ (ヘーゼルナッツ)・ニンジン・セロリ・ジャガイモ・トマト
4~6月	カバノキ科	シラカンバ	リンゴ・モモ・洋ナシ・イチゴ・ハシバミ (ヘーゼルナッツ)・クルミ・アーモンド・ココナッツ・ピーナッツ・セロリ・ニンジン・ジャガイモ・キウイ・オレンジ・メロン・マスタード
2~5月	ヒノキ科	スギ・ヒノキ	トマト
4~10月	イネ科	カモガヤ、オオアワガエリ	メロン・スイカ・トマト・ジャガイモ・タマネギ・オレンジ・セロリ・キウイ・米・小麦
8~11月	キク科	ブタクサ	スイカ・メロン・バナナ
		ヨモギ	ニンジン・セロリ・ピーナッツ・ハシバミ (ヘーゼルナッツ)・ジャガイモ・トマト・キウイ・マスタード

ブナ目

飛散時期	花粉アレルゲン
1~4月	ハンノキ (属)
4~6月	シラカンバ (属)
4~5月	ブナ (属) コナラ (属)

患者さんが増加傾向にあるOAS¹⁾



果物等を食べて口に不快感
がある患者さんには

監修 奥田 稔 先生
日本医科大学 名誉教授
日本臨床アレルギー研究所 顧問

スギ・ヒノキに加え

ハンノキも測定下さい

共通抗原性があるブナ目

ハンノキが属するブナ目には多くの種があり、これらは日本各地に分布し、1月～6月に花粉を飛散させます。(表1)
また、これらブナ目花粉の間には共通抗原性があるため²⁾、知らず知らずのうちに感作されている可能性が高いと言えます。

ブタクサよりも高い陽性率

秋の代表的なアレルギー性鼻炎のアレルゲンであるブタクサより高い陽性率を示し(東海を除く)ます³⁾。(表2)

スギ花粉症の20%が感作

スギ花粉症患者の約20%はハンノキに感作されていると報告があります⁴⁾。また、スギ花粉症患者におけるOAS 合併率については7～16%と報告があります^{5,6)}。

ハンノキ感作の半数がOAS

OAS(口腔アレルギー症候群)は花粉症の人に合併する疾患です。OASではカバノキ科(ハンノキ・シラカンバ)花粉に感作症疑いの患者が多く、続いてヨモギ、イネ科・スギなどで報告されています⁷⁾。(表3) 鼻アレルギー患者におけるハンノキ感作例の54.8%にOAS既往があり、ハンノキ特異的IgE抗体価が高いほどOASの頻度が高いと報告されています⁴⁾。また、特異的IgE抗体価が高くなる花粉飛散時期に症状が起こりやすくなりますので注意が必要です。

OASの問診ポイント

成人に多く、症状が軽く気付きにくい疾患のため、知らず知らずに摂取し、時に重篤な症状を引き起こす可能性があります⁸⁾。OASの診断には、表3を参考に「果物や野菜を食べて口や喉が痒くなったり、喉がイガイガするようになったことはありませんか?」など具体的に聞くことも重要となります。

参考

- 1) アレルギー; 56: (6), 587-592, 2007 2) Allergy; 42: 205-214, 1987 3) 鼻アレルギー診療ガイドライン2009 4) アレルギーの領域; 5: (6) 761-765, 1998
5) アレルギー; 45: 1028, 1996 6) アレルギー; 47: (8) 715-719, 1998 7) アレルギー・免疫; 17: (6) 1031-1038, 2010 8) アレルギー・免疫; 8: (8) 837-844, 2001

表1 主なブナ目と飛散時期*

科	属	種	飛散時期					
			1月	2月	3月	4月	5月	6月
カバノキ科	ハンノキ属	ハンノキ						
		ヤシャブシ						
	カバノキ属	シラカンバ						
		クマシデ属	クマシデ					
ブナ科	ブナ属	ブナ						
	コナラ属	コナラ						
		クヌギ						
	シイ属	スダジイ						

指導: 東邦大学理学部訪問教授 佐橋紀男

表2 地域別陽性抗原³⁾より改変

	北海道東北	関東	東海	近畿	中国・九州
スギ	32.0	68.5	65.3	57.6	51.2
カモガヤ	24.0	26.8	42.7	36.7	35.4
ハンノキ(属)	14.7	14.8	9.3	23.0	21.6
ブタクサ	12.0	11.4	13.3	18.0	13.4
ヨモギ	17.3	12.1	21.3	26.6	21.6

⁷⁾改変、*

表3 花粉との関連が報告されている食物(野菜・果物・ナッツ類)

カバノキ科: ハンノキ・オオバヤシャブシ
バラ科(リンゴ・モモ・ナシ・ビワ・サクランボ・イチゴ) ウリ科(メロン・スイカ・キュウリ) ダイズ(豆乳)・キウイ・オレンジ・ゴボウ・ヤマイモ・マンゴー・アボカド・ヘーゼルナッツ(ハシバミ)・ニンジン・セロリ・ジャガイモ・トマト
カバノキ科: シラカンバ
バラ科(リンゴ・モモ・ナシ・洋ナシ・スモモ・アンズ・サクランボ・イチゴ) ヘーゼルナッツ(ハシバミ)・クルミ・アーモンド・ココナッツ・ピーナッツ・セロリ・ニンジン・ジャガイモ・キウイ・オレンジ・メロン・ライチ 香辛料(マスタード・パプリカ・コリアンダー・トウガラシ)
ヒノキ科: スギ・ヒノキ
トマト

*赤字はImmunoCAPにより測定可能